



第四回避難所・避難生活学会・第五回新潟県中越大震災シンポジウム 合同開催  
テーマ「避難環境の標準化と均質化」

# 今後の災害対策についての提言 ～倉敷市真備町の被災から見たもの～

平成30年12月9日

橋本 岳

# 謝辞

平成30年7月西日本豪雨災害に関し  
全国からお寄せいただいた  
多大なるご支援に対し  
深く感謝申し上げます

# 自己紹介

- 衆議院議員（当選四回）
- 自由民主党厚生労働部会長（7月災害当時）
- 岡山県第4選挙区（倉敷市（ただし旧真備町・旧船穂町を除く）・早島町）選出
- 大災害の被災経験なし。ただし東日本大震災の折に、物資輸送および災害ボランティア（釜石市箱崎地区で側溝掘り）参加経験あり
- 厚生労働大臣政務官の折に広島市土砂災害と常総水害、厚生労働副大臣の折に岩手県水害に遭遇。厚生労働省各災対本部を経験。



# 真備町で発生したこと（1）

- 7月7日午前零時前後、小田川およびその支流の堤防が決壊、洪水発生。約5,700戸が被災。51名が死亡。約1,850名が救助。
- 最大時の避難所避難者約2,500名超、避難所30箇所以上（総社市分も含む）
- 現在は避難者5世帯17名
- ただし夜は暗い。河川の改修とあわせて居住の再開が課題。



# 真備町で発生したこと（2）

- 発災後0～2日くらい：救助、所在確認
- 発災後1日後：リンク集作成
- 発災後数日～2週間：避難所の基礎的な環境構築／災害ボランティア活動（現在まで）
- 発災後数日～1か月：災害がれきの搬出
- 発災後2週間後：自治体webサイトの充実を受け、リンク集更新停止
- 発災後1か月までに：避難所への物流システム構築
- 発災後5か月：避難者17人(12月7日現在)



# 橋本の立ち位置

## ・ 決意：バックヤードのサポーターたらん

- 発災当初、混乱する市役所、県庁、国、避難所、災害ボランティアセンターに直面。被災現場を支えるバックヤード間の連絡調整役が必要であると痛感
- 与党代議士の強み：直接トップ（大臣、知事、市長）に会える／電話できること
- 真備町の現場や各避難所も訪問しつつ、市や県の災害対策本部、災害ボランティアセンター等を巡回。在京の折は自民党会合や各省庁に直接現地の状況を伝え、折衝を重ねる
- 関係情報リンク集の作成
  - ・ 橋本がくブログ参照





7月8日午前、二万橋北付近より撮影



7月8日午前、避難所（二万小学校  
体育館）にて撮影



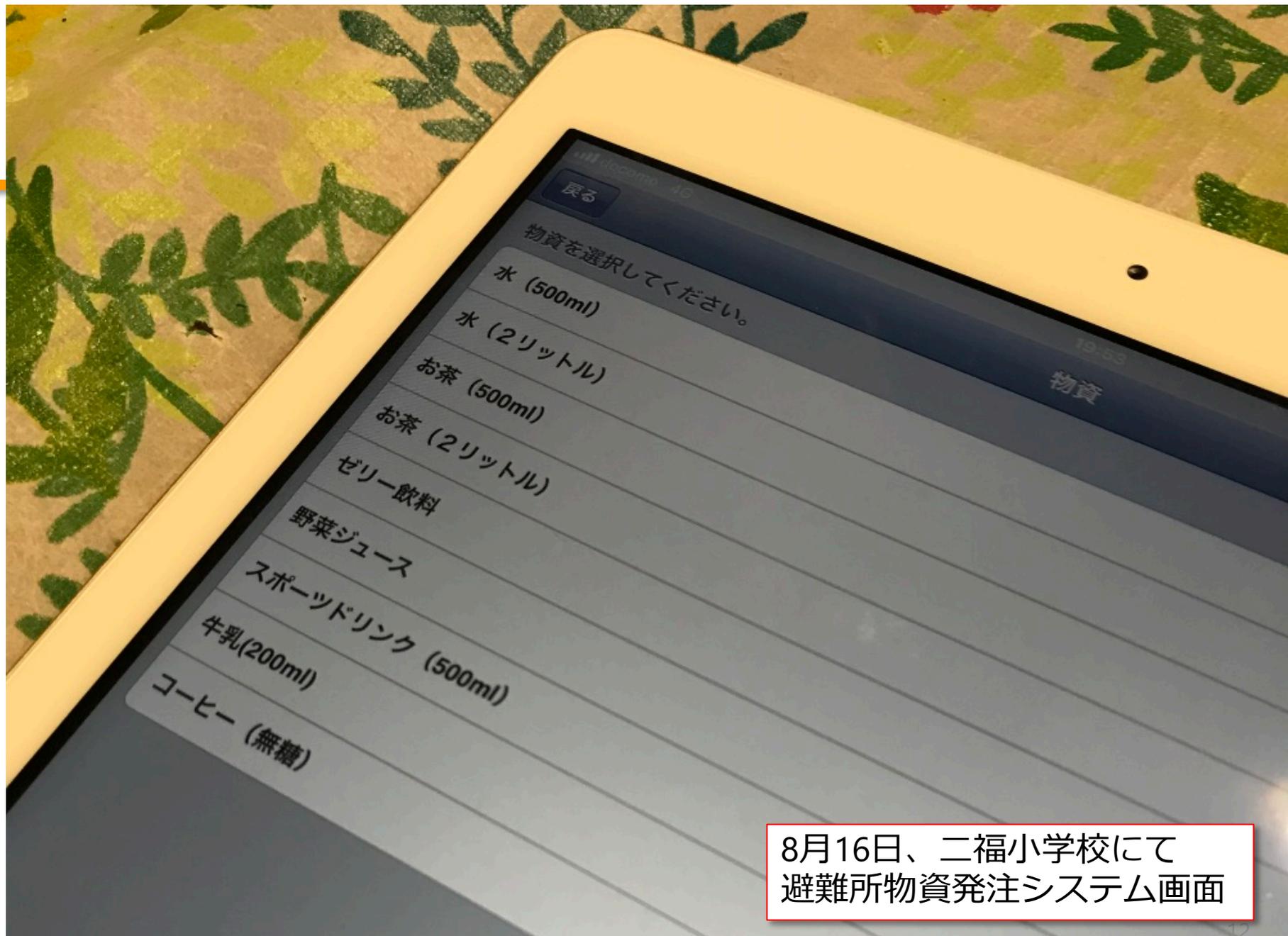
7月10日午後、真備町辻田付近にて撮影



7月16日午前、避難所（岡田小学校体育館）にて撮影



7月16日午前、畑岡交差点にて  
撮影



8月16日、二福小学校にて  
避難所物資発注システム画面



10月27日21時頃、真備町川辺にて撮影

# 印象(1)：立ちすくむ自治体

- 「ポリテクカレッジを借りたいんだけど...」
- 市・県でしばしば聞いた言葉
  - 「お金はどこが持つの？」
  - 「査定されない？」
  - 「前例が...」
- 被災経験に乏しかったこともあるが、いかに常日頃、自治体は国から厳しくチェックされているのかと実感。
- ただし、ボラセンでも聞いた気が...。

# 印象(2)：とても積極的だった政府

- 「困ったことは何でも言ってくれ！」
  - 小此木防災相、小野寺防衛相、世耕経産相、加藤厚労相らの心強いセリフ
- 実際、発災後の政府の対応は迅速
  - 1週間後には避難所に段ボールベッドやクーラー設置
  - 約1週間で激甚災害等指定（見通しを含む）
  - 災害がれきも自衛隊が速やかに撤去
  - 1か月後に予備費による生活支援パッケージ公表
- それだけに、自治体とのギャップが...
  - 倉敷市勤務経験のある厚労省職員がリエゾンとして大活躍



# 印象(3)：未だ残る制度のはざま

- 災害ボランティアセンターのクーラーを誰が設置するか問題
  - (財) 高齢者・障害者・求職者雇用支援機構に心から感謝
- 土砂や廃棄物等を撤去するのは国交省事業？環境省事業？
  - 平成 30 年 7 月豪雨 生活・生業再建支援パッケージ (8月2日) にて一体的運用と整理
- 「半壊の涙、境界線の明暗」
  - 被災者生活再建支援給付金の拡充を全国知事会が提言



# 提言(1)

- **自治体が自信を持って災害対応の指揮を執れるようにする**
  - 災害関連制度の事前の周知・訓練
  - 予算面の裁量（特別交付税の前払い？）
  - 省庁との連携・自治体間連携の日常的な涵養
    - 省庁側も、出向経験者のリストを備えるべき
  - スタートアップの能力を鍛えるには...？

# 提言(2)

- **避難所の環境向上のスピードアップ**
  - 「段ボールベッドやパーティションキットが早期に避難所に採用され、避難所の健康・衛生環境の確保とプライバシー保護に効果を発揮した。」  
(平成30年7月豪雨に係る初動対応検証レポート)
  - 「避難所」の日頃のイメージづくりと備えが大事
  - DWAT(災害派遣福祉チーム) の普及
    - 今回、岡山県DWATが真備町3避難所で活動。避難所内の食事やトイレ介助、相談支援、各種環境整備等について、福祉的な視点からの支援を実施。



# 提言(3)

- 災害ボランティアセンターを法的に位置づける
  - かなり手探りの災害ボランティアセンター運営だった印象
  - 内閣府と厚生労働省がそれぞれに支援するが、所管しているわけではなさそう
  - ただし、現場の自由度を失うことに繋がっては元も子もないため、慎重な検討を要する

# 結びに

- まだまだ、倉敷市真備町が「街」として復活するには時間がかかります。  
引き続きお心を寄せて頂けると幸いです。
- 同時に、倉敷美観地区をはじめ、各地の観光地は元気です！ぜひお出かけ下さい。

ご清聴ありがとうございました

7月10日、総社市下原から  
倉敷市真備町を望む